



No. 7

2023年8月15日 (火)



## 2023年の憲法記念日をどう過ごしましたか

田中徹歩



ウクライナ侵攻、台湾有事、北朝鮮による弾道ミサイルの発射があり、9条は役に立たないから、憲法「改正」をして9条を変えろとの意見が増えていると報じられています。現に5月2日に下野新聞に掲載された世論調査の結果では、改正必要が53%、改正の必要はないが47%と、改正の意見が多数を占めました。このような数字を見ると、不安を覚える人もいるのではないかと思います。でも、起きている事態や勢いのある言説を冷静に、かつ多角的に見ていくと、私たち国民が持つ不安が、煽られて作られたものであることに気づくはずです。少し立ち止まって周りをじっくり見まわしてみることも必要です。私たちは、これまでと同様、臆することなく、自信をもって、平和主義や9条の本質と歴史的意義を訴えていきましょう！そんな気持ちで今年の5月3日を迎えました。

この日、私たちの九条の会はとちぎ革新懇とともに、とちぎ健康の森・講堂をいっぱいにして憲法記念日集会を持つことができました。飯田美弥子さんの軽妙で分かりやすい語り口での憲法講話は、改めて、憲法のすばらしさを伝えるものとなりました。小山では、小山九条の会などが公園で集会を開いた後、パレードを行いました。栃木市では、太平山麓九条の会の面々がスタンディングと歌でアピール行動を行いました。栃木県弁護士会では、会長声明を出して、広く市民に恒久平和主義と平和主義の堅持、基本的人権の擁護を訴えました。東京で開かれた「あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023 憲法大集会」も25,000人が集まり、コロナ禍以降、久しぶりの集まりとなりました。宇都宮からも県民ネットを中心に多くの人々が参加しました。私たちは、時々、休みながらも、平和の土台である9条を守り、平和主義を発展させることに力を割いていこうではありませんか。



### フェスタ my 宇都宮 2023

4/30 (日) 出店しました！

★今年は、子ども広場スタンプラリーで訪れる子供たちへお菓子と

ともに、九条の会のミニパンフ・絵葉書、協力者の手編みの9の字の葉を渡しました。輪投げを楽しんだ子どもたちへは、子どもたちにぜひ届け

たい憲法メッセージ(立憲主義と個人の尊重)のミニカード(はんどう大樹作『おりとライオン』、伊藤真作『あなたこそたからもの』～どちらも弁護士作の絵本～からイラストと言葉を抽出したもの)を手渡しました。土砂降りの雨が少しずつ晴れていく中、来客数も最多の100名を超えました。須藤博さんの『生ましめんかな』(作者:栗原貞子)の詩の朗読と、大野幹夫さん伝授の紙芝居『火の海になったうつのみや』も上演。釘付けになった兄妹の目が印象的で、やりがいを感じました。来年は、『九条の会ってなあに?』のミニパンフも作って配りたいと思います。

## 「九条の会・栃木」をやっているよかったと感じたとき ～「フェスタ my」という出会い～

“フェスタ my 宇都宮” 担当 安達直将

3月2日、下野新聞。88歳・永嶋静江さんの投書が目にとまった。そこには、映画「島守の塔」のことと自身の戦後の生活の苦勞、そして「戦争の悲惨さと平和の尊さを命の続く限り、次の世代に語り継いでいきたい」との決意が記されていた。

平和・反戦をテーマに話をしてくれる人を捜していた私は、お名前を google し、情報の糸を手繰って、永嶋さんに連絡を取り、フェスタ my での語り部をお願いした。

永嶋さんが経験した、父親の戦死や戦後の貧しさについて、要言するにも紙面が足りない。栃木県遺族連合会編集『太平洋戦争戦没者遺児の記録一苦しみの日々』の永嶋さんの寄稿をお読みいただきたい。

フェスタ my で語り部してくれた内容を一つ紹介する。永嶋さんは子どもの頃、家計を助けるため、夜、米俵を編んでいた。そして、よく茅で手を切ったという。暗闇に走る血の赤。それは、私にも臆げに想像できた。

鶴見俊輔は「戦中のさまざまな記憶を保ち続けること。それが未来だと思う」と言った。戦争の悲劇は戦場に留まらない。戦後もまた悲劇。永嶋さんの話は、戦争の悲劇の一面を照射していると感じた。



＜マイクを握る永嶋さん＞

さて、この機会にフェスタ my について、会員の皆様へ次の3点をお願いしたい。

### 1 フェスタ my を見に来てください。そして、私を励ましてください。

私は「乗り掛かった舟」でフェスタ my に携わっているが、別に好きでやっているわけではない。お情けでいいので、励ましに来てほしい。なお、差し入れも歓迎。

### 2 フェスタ my 運営スタッフ大募集

舌の根が乾かぬうちに矛盾したことを言うが、フェスタ my を運営してみると結構楽しい。気づき、学びがある。そして、杉本さん、鈴木さんのお手製ランチは、おいしい。



### 3 あなたこそ「表現」してみてください！

今年は会員でない永嶋さんに語り部をしてもらった ＜みんなでランチタイム＞ が、本来は、会員の中からこの役を選びたかった。来年は「九条の会」の中から「表現」する人が名乗り出てくれることを切望します。

私は「九条の会」をやっているよかったと思った。「九条の会」をやっていなかったならば、こんな出会いもなかったのだから。

第1の場合については、自民党政権下でも日本と中国の政府間で何度にもわたって条約や共同声明で、日本と中国の紛争は武力では解決しないと約束してきている。1972年の「日中共同声明」、78年の「日中平和友好条約」などである。両国間でのこれまでの約束を改めて確認し、むしろ、これを日中の条約だけでなく、東アジア、東北アジアの全体の紛争の解決の基準にしていくことが重要である。

第2の場合、すなわち台湾をめぐる軍事紛争に日本が加担する場合は、より深刻である。安倍政権が、2014年政府解釈を変更し、15年制定した安保法制で集団的自衛権行使を容認しなければ、少なくとも集団的自衛権の行使はできなかった。ところが、安倍政権が安保法制を強行採決した後、安倍・菅・岸田政権と続けて、対中軍事対決に邁進するアメリカに加担して集団的自衛権の行使ができる戦争体制を作った結果、この発動体制を止めることが「万が一」を防ぐための急務となっている。この点で「万が一」を防ぐことは、今岸田政権が進めようとしている大軍拡、「反撃能力保有」を阻止すること、そして安保法制を廃止することである。

9条の目指す、紛争を武力で解決しない世界、アジアをつくるには、軍事対決の激化を止めなければならない。そのためには、改憲を阻止し、核兵器禁止条約批准、核軍縮、通常軍備縮少のイニシアチブをとる必要がある。また、紛争解決に武力を使わないルールを確認する北東アジアの共同体を、中国、アメリカを含めてつくること、そのイニシアチブを日本が持つことも必要だ。こうした協議の場としてすでに6カ国協議の経験を持っているし、ASEANの貴重な経験の蓄積にも学ぶべきである。

## 8 いま、市民に必要な行動は

私たちが今やるべきことは、改憲発議を許さない市民の大運動を起こすことである。その際、重要なことは、岸田政権が強行しようとしている大軍拡、すなわち「反撃能力」と称する攻撃的兵器保有、防衛費の大幅増額予算を許さない闘いと、明文改憲発議阻止の闘いを一緒に戦うことである。

もう一つ重要な点は、改憲発議阻止の運動では、自民党の改憲4項目の危険性を訴える活動を一層強化することである。9条への自衛隊明記は単なる現状追認ではなく、戦争する軍隊となる自衛隊を合憲とする企みだということを訴える必要がある。

改憲は阻止できる。安倍政治を丸ごと正当化し「その思いを受け継ぐ」という口実で改憲策動の挺子として利用しようという安倍国葬は大失敗に終わった。そのうえ、自民党と統一教会との癒着問題が自民党に暗雲を投げかけている。統一教会問題を追及し、改憲阻止の戦いの突破口にしよう。憲法が戦後最大の危機に直面している現在、2015年の戦争法反対の大運動を思い起こし、それをさらに一回りも二回りも広げた規模で改憲発議阻止、大軍拡反対の大運動を立ち上げよう。（終わり 文責：須藤 博）



## 第19回 「九条の会・栃木」総会と映画上映のご案内

★日時 2023年12月16日(土)

★会場 パルティ(とちぎ男女共同参画センター) 宇都宮市野沢町4-1

★総会 10:30~12:00

- ・2023年度のまとめと会計報告(案)
- ・2024年度活動方針(案)
- ・質疑応答

★映画上映 13:00~ 韓国映画「雪道」 監督:イ・ナジョン

脚本:ユ・ボラ

(上映時間121分)



<入場料(大人):1,000円 受付で頂きます>

※日本の朝鮮統治下での朝鮮国民男女の徴用、中でも「日本軍慰安婦」にされた15歳の少女二人(チョンブンとヨンエ)の過酷な人生と、生き延びたチョンブンが、孤独な老後に出会う身寄りのない少女ウンスとの物語が重層的に描かれています。そこには長く続く家父長制の下での女性の差別・人権軽視・暴力が、今も世界各地で起きている戦争での性暴力と地続きであることが示唆されています。この機会に“慰安婦問題を韓国側から描いているこの作品をどうぞご覧ください。

~~~~絵・本・紹・介~~~~

『とうきび』



詩:クォン・ジョンセン

絵:キム・ファンヨン

訳:おおたけ きよみ

発行:株式会社 童心社

発行日:2016/6/15

価格:2,420円



日・中・韓平和絵本シリーズ

絵本の中にある詩は、クォンさんが小学生の頃に描いたものだそうです。忌まわしい戦争の中の、たったひとつの小さな物語に過ぎないかも知れませんが、大きな戦争の中で生きる、私たち、子どもたちの苦しみや辛さが二度と起こりませんように。たくさん亡くなった命を知り、私たちが今あることを知るための、大切な1冊だと思いました。どこの国でおきた戦争でもあってはならないことです。とうきびをかぶりつきながら、想いを馳せたくなる一冊です。<松永れみ>